

人間だけが持っている特別なもの……それは「ことば」の言語です。  
今回は、その「言語」について少し紹介したいと思います。

**ことばの敏感期**

子どもには、ことばの敏感期と言って、ことばに対して一番敏感に反応し、喜びをもって苦勞せずに自然に習得できる時期があります。特に、胎児期を含め、3歳をピークに幼児期の間に現れます。

この時期に、子どもに洗練された言語と、豊かな語彙のある環境を与えてあげること、つまり私たち大人と生活する中で、ことばをたくさん働きかけてあげることが、大切だといえます。また、この時期の子どもは、話したいことがたくさんあっても、うまく表現できないことが多々あります。

大人がその心をくみとってあげること、そして大人同士が正しく美しい会話を心がけることが、子どもたちの豊かな言葉の獲得の手助けとなるのです。

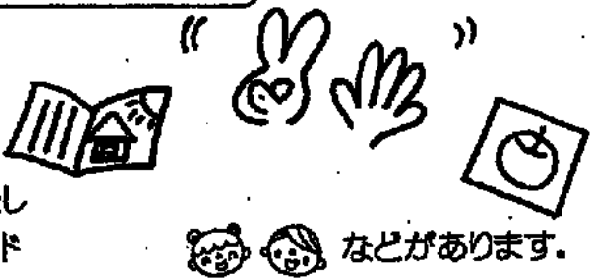
**言葉のプログラム**として、話しことばと書きことばに分けられます。

☆ 上手に話すためには、まずボキャブラリー（語彙）を増やすことから始めなければなりません。

話しことばのプログラム

- ★ たくさん会話をする
- ★ 色々な手あそび歌
- ★ 絵本
- ★ 劇あそび

- ★ おはなし
- ★ 絵カード



などがあります。

◎清心幼稚園の子どもたちは、手遊び、絵本、おはなしなど…  
とっても大好きで、喜んで行っています!!

☆ 今回は、(話しことばのプログラム)の中の絵カードを紹介しましょう。

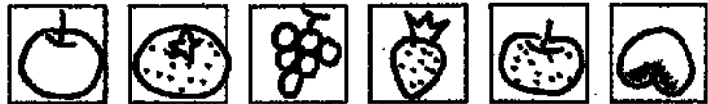
**教具紹介 絵カード**

**目的** → 語彙を豊かにする。発音の指導、分類による秩序感の助成。  
読む練習。

**年齢** → 2歳半～

- 教材** →
- ・ 環境にあるものの中から野菜類、動物、身につけるものなど科学的に分類されたもの。
  - ・ 14cm 四方の大きさのカード(1つの種類に6枚ずつ)
  - ・ 同じ絵を2枚ずつ用意し、一方には名前をつけ、他方は名前なしのもの。
  - ・ 3cm幅の名前だけのカード

**方法** → ①名前なしのカードを1枚ずつ、子どもと会話しながら物と名称を結びつけながら横一列に並べていく



②名前つきのカードを出して、1枚ずつ先ほど並べたカードの中から同じ絵を探して、そのカードの下へ並べていく。



③名前だけのカードもつかって同一性を探す。



④間違い訂正の要素も含めて、カードの文字を読む。

